



主任コラム 8月号

主任 澤井 良子

梅雨が明けた途端に、体温を超えるような暑さが毎日のように続いています。水遊びも屋外では、暑さ指数が31以上の時はできない日もありますが、室内での活動も充実し発達にあった遊びが展開できるように保育していきたいと思ひます。

7月22日より3日間、「保育環境セミナー」に参加してきました。6月の子育て講演でも来て頂いた藤森先生のご講演と、GT(保育環境研究所)の保育園の見学もしてきました。『子ども同士の関わり・異年齢』がテーマであり、【環境を通して=環境を整えること】保育の中で、保育士が子どもとどう関わりどう教えるかが中心となってしまうがちだが、環境を作り子ども達同士が関わることで、子ども達の姿が変わり始める。環境を通して子ども達同士をどう繋げて関わらせていくのが大切になってくるといふお話がありました。コロナがもたらした影響は大きく、人が人との関わりを遮断され孤立してしまい、人と会うことや関わることを苦手としてしまうという傾向になりつつあります。人は一人では生きられず、困った時に相談や助けてくれる人がいないと生き延びてはいけません。人とのふれあいや関わりが大切となります。幼児クラスでいえば、年齢別だと12か月での発達の幅でしか遊びや人間関係の広がりを持ってませんが、異年齢だと36か月の個々の発達で子ども達自身が遊びや、友だちを選ぶことができます。能力の異なる多様な人と一緒になることが、模倣相手として(特に自分よりも少し上の年齢の子を見て、真似ることで発達に刺激を与える面でも)大切となります。どの子も排除することなくその子にとって何が必要なのかということ、年長児にとって異年齢での役割として、年少児に教えることによって自分の能力を定着させることや、年齢の違う子に対して自分の思いを主張する力(非認知能力)も育てることも大事です。そして、習熟度別の製作や日々の保育の中でも選択をし自分自身で考えることで、決めたことに責任をとれるようになる力をつけます。子ども達にとって、環境(物)だけでなく、人からも子どもは発達していく事を研修で学びました。私たちが手を出し過ぎず、子ども達が考えたこと、感じたことを受け入れられる体験や、これからの社会で生きていくためにどのような保育をしたらいいかを考えながら、個別最適な支援への学びを深めていきたいと思ひます。

先日は、夏の集いにご参加下さりありがとうございました。今回は、全園児の他に支援センターを利用されている方や、昨年度の年長児もお招きしました。暑い日となり、園舎内での行事ではありましたが、出店が混雑しご迷惑をおかけしました。子ども達はいつもと違う園の雰囲気と保護者の方と楽しみ、灯りアートでは「すごく綺麗！」と子ども達の作品に感動する声をいただきました。また、卒園児の子との再会の場にもなり、私達も子ども達の成長がみられて嬉しく思ひました。地域や卒園児にも気軽に来られる、開かれた保育園でありたいと思ひます。

